

環境影響評価審査会 武庫川ダム小委員会 会議録

1 日 時 平成12年2月21日(月) 10:00~15:00

場 所 兵庫県中央労働センター 小ホール

2 出席者

(1) 委員

齋藤会長、白子副会長、朝日委員、小嶋委員、北村委員、小泉委員、小松委員、田中委員、辻委員、中瀬委員、西村委員、藤井委員、前川委員、松梨委員、室崎委員、桃井委員

(2) 事務局

- ・環境政策課 環境影響評価室、自然環境保全室
- ・環境整備課
- ・大気課
- ・水質課

(3) 事業者等

- ・河川開発課
- ・西宮土木事務所宝塚出張所

3 配付資料

(1) 武庫川ダム環境影響評価審査会(H12.1.17)における質問事項に対する回答

(2) 岩盤掘削工事等の例(写真)

(3) 陸生植物・陸生動物・水生生物の調査内容

4 議事の要旨

<配付資料(1)について説明後、質疑>

主な質疑は次のとおり。

(1) 水量、治水の関係について

委員： 前回、概要書p.6の流量分配図について、流量が流域面積に対応していないのではないかと質問したが、もっと詳しく説明して欲しい。

試験湛水時に水が貯まるまでに何日かかるのか。また、それを早めるにはどうしたらよいのか。

100年に1回の洪水だけでなく、通常の洪水に対してどのように穴の大きさを設定すればよいのかということも重要だと思う。

武庫川ではかつて何度も洪水があったと思うが、そのときの流量や水位変化等について説明して欲しい。また、それらに関連して、流量設定の概要についても教えて欲しい。

(2) レクリエーション施設について

委員： ダム内の通路に写真パネルを展示するところをレクリエーション施設というのか。普通、レクリエーション施設とは、グラウンドや自然歩道等がイ

メージされる。

事業者： レクリエーション利用については、日吉ダムの場合について示した。

委員： 日吉ダムの施設は、レクリエーション施設とは呼ばれていないのではないのか。

事業者： レクリエーション多目的ダム事業で整備した施設で、インフォギャラリーと呼ばれている。

本事業においては、計画地周辺にハイキングコースがあることから、ハイカーの休憩施設や展望施設等を整備する予定である。

委員： レクリエーション施設について、パンフレットでは廃線敷の活用やハイキングコースについての記載があるが、概要書には記載がないのはなぜか。レクリエーションについて考える場合、レクリエーション地までのルートも必要となるので、点ではなく線で考える必要がある。また、パンフレットでは下流域のマイタウン・マイリバー整備事業やふるさと桜つつみ回廊について記載があるが、概要書には記載がない。計画の熟度にあわせてパンフレットに書いているようなことは概要書にも書いた方がよいと思う。

(3) その他

委員： 西宮での下水道の普及率を教えてください。

委員： 他のダムや兵庫県等で、ダム内の通路については、ダム全体の堤体コンクリート量が上昇するからできないという議論があったと思うが、今回のケースでも普通のダム内の通路よりは若干大きくするとダム全体のボリュームに関係してくると思うが、その議論はされているのか。

ダム天端を大きくするとあるが、付帯工事は増えないのか。

<事業者から工事方法について説明。ダム工事方法の概略とプラントや道路の位置については、現在、環境等の諸条件に配慮してどのような方法が可能か検討している段階である。したがって一般的なダム工事の内容について、配付資料(2)により説明。また、ダム堤体の上流側に仮閉切用堤を造り、流水は、仮閉切用堤の上流から転流トンネルによりダム堤体の下流側へ流すことになる。説明後、質疑。>

主な質疑は次のとおり。

(1) ダム工事について

委員： 転流用トンネルは工事終了後どうするのか。

事業者： 出入口は閉め切ることになる。

委員： 転流用のトンネルの径はどれくらいで、下流の放流口はどこになるのか。

事業者： 転流用トンネル径は、トンネルの利用の仕方によって変わってくるため、現時点では決まっていない。

転流用トンネルの下流放流口は、どん尻川の合流地点付近を考えている。

委員： 仮閉切堤はダムサイトからどれくらい上流に設置するのか。

事業者： 現在検討中。ダム堤体建設方法については、軽流用トンネルの掘削ずりを骨材に利用する方法や、できるだけコンパクトにして足りない骨材を購入すること等を検討中で、それにより仮閉切堤の設置位置が決まってくる

が、余り上流に設置すると自然改変面積が大きくなってしまいう問題等があるので、十分検討を行いたいと考えている。

委員： もう少し事業計画が具体化しないと、騒音・振動がどこで発生し、どこで現況調査をしたらよいか分からない。バッチャープラントの位置が変わるだけでも工事用車両等の騒音・振動が変わることもある。

(2) 試験湛水について

委員： 試験湛水の際、下流域への維持水量は保てるのか。また、下流域では農業に利用されていないのか。

事業者： 試験湛水時には、維持用水を流しながら水を貯める。水は農業でも一部利用されている。

委員： 水を流しながら水を貯めるとなると相当な時間が必要ではないのか。

事業者： 平均的な雨の降り方で140日程度必要。

委員： 140日の間に下流域では干上がってしまい、生態系が維持できなくなるのではないのか。

事業者： 維持用水に必要な水量は流す。

委員： 前回の説明では、試験湛水を緩和する方向で検討していくということだったと思うが、試験湛水は絶対に行う必要があるのか。また、水が満水になっても1～2日で水はなくなるので、生態系は守れるということであったが、試験湛水に140日も必要ならば、影響を与える植物もあるのではないのか。

事業者： 試験湛水は、自然環境への影響を極力軽減するよう、緩和する方向で建設省と協議を行う予定である。

(3) その他

委員： 武庫川の水がいろいろと利用されていること、また下水処理水もかなり流れ込んでいるが、武庫川の水で希釈されることを計算に入れているということも聞いたことがあるので、このことについても考慮して欲しい。

西宮では田がかなり減っているが、百間樋はかなり重要な水の取り入れ口として利用されており、家庭排水等はその水で押し流されている。西宮では住宅が集中しているところはほとんど勾配のない水路で固められてきているので、昨年夏の集中豪雨のときもあふれた。武庫川ダムとは関係ないかもしれないが、田の保水力がなくなっていることも気になる。

生態系を守る計画にして欲しい。

< 概要書第 章以降及び配付資料(4)について説明後、質疑 >

主な質疑は次のとおり。

(1) 大気質、水質及び生物について

委員： この概要書では、下流域の生態系については全く問題にされていない。下流域では生物調査がほとんどされないとなっている。実際に影響を受ける生物の調査についてどのように考えているのか。

下流域での生態系に必要な維持水量についての現況調査や文献調査も、

やっていないので、準備書では検討して欲しい。また、甲武橋から阪神の堰の間では、月によっては水質の浄化作用がみられることがあるので、これらを維持するために必要な維持水量についても調べて欲しい。

事業者： 有機汚濁については、下流域への影響を予測する。河川の状況等については、他の調査結果も踏まえ整理する。

委員： 今回の予測は定性的部分が多くなっているので、定量的にできることは定量的にした方がよい。特に、大気質や水質は環境や生物の基礎になるので是非お願いしたい。

委員： 大気汚染の予測は全て定性的になっている。現況ではそんなに高くないかもしれないが、工事中には高くなるのが予測されるので、少なくとも観測をしておくことは必要だと思う。全てを定量的に予測する必要はないと思うが、工事用車両の台数やどれくらいの窒素酸化物が出てどれくらい飛散するのかのようなことはできるだけ定量的に予測する必要がある。特に、粉じんは問題になるかもしれない。県の環境部局でも尼崎訴訟の判決を踏まえたような指導をして欲しい。

(2) 騒音・振動について

委員： 堤体工事や転流用トンネルでは発破は行うのか。

事業者： 堤体付近の岩盤はかなり強固なので発破は行う予定である。

委員： 概要書p.99の建設作業騒音の予測では、堤体工事と転流用トンネル工事における発破も含めて予測するのか。

事業者： 発破の影響も予測する。

(3) 景観について

委員： 工事中の景観については評価しないのか。工期が長いので、工事中の予測もした方がよいと思う。

ダムサイト付近の景観の視点場は3点しかないが、普通は5～10点ぐらいから絞り込むのではないのか。

景観については、景観だけで評価するのではなく、ハイキングコース等のレクリエーションと関連づけて評価した方がよいと思う。

事業者： 指摘のとおり視点場は、できるだけ多くのポイントから集約すべきと考えているが、地形的に狭隘な土地で、視点場が限られてくることからダムサイト付近を眺望できるポイントは下流に集まっている。もう少し遠景のポイントについても調査はしている。

委員： 私が云いたいのは、工事中もハイキングコースが利用されるなら、工事中のプラント等も景観に調和するというようなことも記載した方がよいということである。

事業者： 工事中のハイキングコースの利用は大きな課題であり、住民からも意見が出ている。工事中のハイキングコースの利用については、安全性の問題や代替ルートを考えて場合の新たな斜面が発生して環境に影響を与える問題等があり、現時点では決まっていないので、準備書では回答できるようにする。

委員： ハイキングコースを利用できる、できないの議論ではなく、レクリエーション等に配慮しながらこんな工事が進んでいるということを公開できるぐらいのものにする必要があるのではないのか。

委員： 景観の予測の時期は施設完成時となっているが、施設が完成しても武田尾付近から施設が見えるわけがなく、関係ないと思うが、武田尾付近を視点場に選んだ理由があるのか。

事業者： 武田尾付近で付替道路工事を行うためである。

委員： 付替試道路工事は施設完成時にはならないのではないのか。

事業者： 付替道路もダム事業関連施設であると考えている。

委員： 武田尾付近の視点場から付替道路が見えるのか。また、付替道路の視点場はここだけでよいのか検討して欲しい。

(4) 試験湛水について

委員： 試験湛水の際、湛水までの期間を短くするために、青野ダム等の水を利用できないのか。

事業者： 試験湛水には、青野ダムの水を利用する方法や試験湛水の範囲を縮める方法等がある。試験湛水では1日の水位の上昇や下降のスピードに制約があるので、それらを緩和できないか等も検討していく。

委員： 試験湛水について、かつての武庫川の水は澄んでいたが、今はかなり濁っており、100日間も水を貯めることになる、ただ単に水が貯まって水が出ていくというものではないと思うので、しっかり状況を把握してから試験湛水を行う必要があると思う。

委員： 住民は試験湛水で100日間も水を貯める場合、上流部分についての影響も心配すると思う。

(5) その他

委員： 今回のような穴あきダムは、日本あるいは世界に例があるのか。穴あきはダムの治水の目的を果たすだけでなく、環境保全にも役に立つ等の利点を図書の中でアピールしてもよいと思う。

委員： パンフレット(阪南市街地を水害からまもる武庫川下流の治水)は、重要なところが背景と重なり読みにくく、住民にはかなり評判が悪い。

委員： 住民からダムはいらない、水量計算の根拠が過大であるという意見があるが、どのように住民に説明するのか。

委員： 準備書の作成に当たっては、住民は常に先取りしていることを踏まえ、丁寧な住民が納得できる形にして欲しい。

委員会に提出した資料の結果や予測の基礎となるものや住民の疑問等については少なくとも載せて欲しい。

委員： 概要書p.101の環境保全と創造のために予め講じる措置では、創造についての記載は全くない。環境の創造にも力を入れて欲しい。

現在のハイキングコースはハイキングコースとして設定されたものではなく、勝手に利用しているものである。それをハイキングコースとするならば、管理責任が必ず問われる。また、ノーマライゼーションの観点から、

老人や車椅子でも武庫川の自然を楽しめるようなものにして欲しいという意見も聞いたことがある。

<事業者退席後>

主な意見は次のとおり。

委員： 準備書の段階では、改めて説明を求めなくても済むようなものにして欲しい。

委員： 武庫川では過去の洪水記録があると思うので、理論式が過去の洪水にも適合するのか確認して欲しい。また、現場を踏まえた洪水の最大量を考えて欲しい。

武庫川は流域が広いので、水が1度に流れた時やどこでどれだけ洪水があった時等に下流域でどのような被害があるのか知りたい。

委員： 日本の大きな河川では、最大流量と最小流量の比率から、河況係数というものがあると思う。

委員： 私の記憶では、昭和13年の洪水被害が一番大きかったように思う。

大阪付近における河川堤防の変遷の資料や武庫川の水害記録は土木局等に多くあると思う。

委員： 武庫川ダム建設にあたっての流量設定の概要や洪水の実績について出して欲しい。

委員： 100年に1回という言い方が良くないと思う。これから先は、場合によると100年に1回ではないかもしれない。

委員： 武庫川の上流の丹波地方では汚い水を流さないように努力をしており、下流の尼崎での緑の基本計画でも武庫川ダムの話が出てくるように、住民の関心が高いので、武庫川流域全体で考えた場合の武庫川ダムの必要性について説得力のある説明が必要である。

まちづくり部がふるさとの残したい景観についてアンケートを行っていたが、1市10町からの1026通中、36通が武庫川渓谷についてであった。本事業はかなり注目を受けているところで行われる、ダムの必要性について誰が聞いても納得できる説明にして欲しい。

委員： 委員がそう思うのであるから、住民ならなおさらであると思う。

委員： アセスの審査には、委員が計画を理解できることが必要だと思う。

以上